

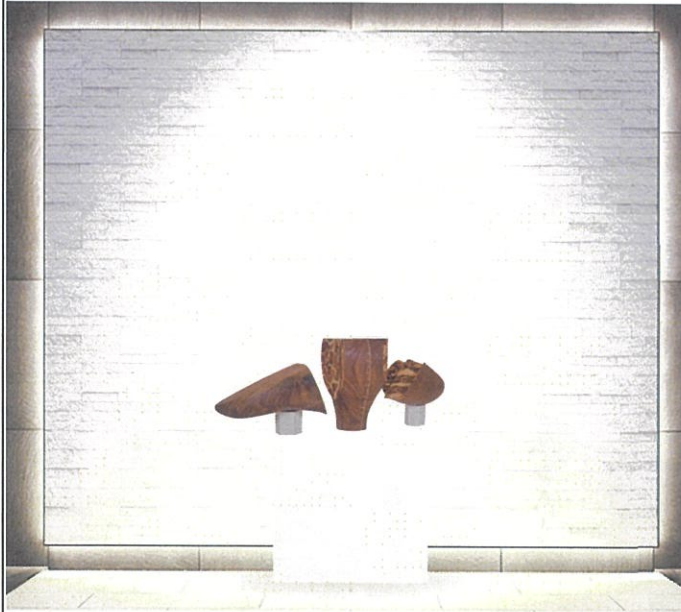
作品の設置方法を選んで、チェックをつけてください

台座置き     壁付

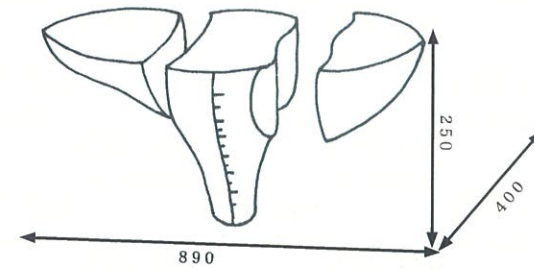
※台座置き作品は台座のサイズも分かるように記入すること  
 ※台座のサイズは幅600×奥行600×高さ1000mm以内

作品および設置イメージ・説明・制作方法

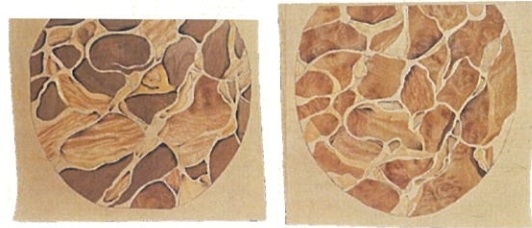
設置イメージ



立体図



曲面木象嵌(模様)



制作工程イメージ



木材の圧着

削り出す

鉋で曲面の形を仕上げ

曲面木象嵌イメージ 図1

曲面木象嵌イメージ 図2

作品コンセプト

本作品は、幼少期の台湾の原風景から着想を得た。台湾では、自然豊かな海が私の生活を取り囲んでいるようだった。東京に来てからは、高層ビルに囲まれながら、生活し勉強に取り組むことが多かった。

品川区は東京湾に隣接する街で、本プロジェクトの戸越には、レンガにまつわる歴史、近くには日本の庭園を基礎とした自然豊かな公園がある。壁のレンガや、天井から壁へとつながる曲げ木を意識させるエントランスは、歴史と自然の調和を感じさせる。空間全体が調和し呼応させることが、作品にとって、必要な要素であると考えた。

天然木の持つ自然の風合いを基本として、寄木による船を抽象化した流線形と、曲面木象嵌という技法による水面の表情から、海と木々に包まれるような自然の雰囲気を感じてもらえるだろうと考える。

作品名	海取り			作品NO.	42				
素材	木材			想定重量	30 kg				
作品サイズ	横幅	990	×	高さ	400	×	奥行	250	(単位:mm)

作品コンセプト

私は台湾の高雄の中でも、四方を海に囲まれた小さな島で生まれ育った。隣の大きな港に毎日船が入り出ており、子供の頃、よく海を見ては「島や船など浮かんでいるものの海の中はどうなっているのだろう」と考えたものだ。木工では、原木から木材を切り出すことを「木取り」という。切ってみるまで木目がわからない原木のように、海を一つの原木だとしたらどのような表情が生まれるのか。海に浮かぶ船の形を借りて、子供時代に描いた海の中を切り出した。船の外表の模様を寄木細工で作し、切り出した面を曲面木象嵌した。通常、切り取れないものを、人為的に切り出すことで、空想的な表現を試みた。

【過去の自分の作品】 ※画像や写真などを配置もしくは貼り付けてください

